



2016年度 競技規則変更の概要

新競技規則書を受けて

7月3日付最新版

2016年7月3日
(公財) 日本ハンドボール協会競技運営委員会
審判委員会

2016年7月1日より実施される新競技規則について、6月22日国際ハンドボール連盟 (IHF)より新競技規則書が発行された。(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会では、すでに IHF より発表されていた競技規則変更に関する概要と内容を照らし合わせ、6月27日新しい解釈 (朱書き)も踏まえ、改訂版を発行した。**その後IHFに確認を入れた点や通達も含め、7月3日付の最新版を発行する。6月27日付にさらに加筆している部分には青字で表記している。**なお、新競技規則書については、現在翻訳中であるが、IHFとの確認等を今後十分に行った上で、7月中に発行する予定である。

競技規則変更の概要

1 ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代

- ①コート上にコートプレーヤーが同時に7名いることが許される。この場合、ゴールキーパーと交代するコートプレーヤーはゴールキーパーのユニフォームと同色にする必要はない。
- ②コート上に7名のコートプレーヤーがいる場合、誰もゴールキーパーの役割を担うことはできない。つまり、誰もゴールエリアに入りプレーすることが許されない。インプレー中に**7名の中の1名がゴールエリアに侵入し、明らかな得点チャンスを妨害した場合、8:7(f)段階的罰則を適用し、7mスローを与える。**
- ③競技規則 4:4 から 4:7 に示す、これまで通りの通常の交代も許される。この場合はゴールキーパーは存在し、チームは競技規則第5条 (ゴールキーパー) および第6条 (ゴールエリア) に示す権利を有する。
- ④コートプレーヤーが7名の状況で、そのチームにゴールキーパースローが与えられた場合は、そのうちの1名がゴールキーパーと交代し、ゴールキーパースローを行わなければならない。この場合レフェリーは、必要と判断すればタイムアウトを取ることができる。
- ⑤**ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代に際し、不正交代があったが、違反した選手が特定できない場合は、交代したゴールキーパーを違反した選手として扱う。**

- ⑥競技終了の合図の後、最後の1投を行わせる場合、防御側チームにゴールキーパーが不在の場合は、コートプレーヤー1名がゴールキーパーと交代することが許される。

2 選手が負傷した場合

競技規則 4:11 第1段落に関して、選手が負傷した場合は以下の要領で対処する。試合を円滑に進めるため、コート上での治療行為の時間を可能な限り減らすことを目的とする。

「各国協会はユースのカテゴリーにおいて、この条項の適用を取り消すことができる。」と今回の IHF 競技規則書の中に記載されている。

この条文を受け、(公財)日本ハンドボール協会ではユースのカテゴリー(高校生、中学生、小学生)において、この条項の適用を取り消すこととする。ただし、詳細については7月1日付、「2016年度 競技規則運用についての通達」を参考にすること。

<レフェリーに対して>

- 明らかにコート上での治療行為が必要であるとレフェリーが判断したならば、レフェリーはゼスチャー15(タイムアウト)、16(入場許可)を即座に示す。この場合、チーム役員はこの指示に従わなければならない、拒否することはできない。
- それ以外の場合、レフェリーはゼスチャー16を示す前に、プレーヤーに対して、「プレーを続けますか?」と問いかける。続けられないと答えた場合、レフェリーはゼスチャー16を示し、入場許可をする。ゼスチャー16を示す前のタイムアウトは、負傷した選手をコート外に出し、一定の期間コートに入ることを許さないということを意味しない。
- チーム役員がこの指示に従わなかった場合は、「チーム責任者」がスポーツマンシップに反する行為として罰する。
- プレーヤーがレフェリーの指示に従わないときは、スポーツマンシップに反する行為としてそのプレーヤーを罰する。

<以下の通り改正する>

- コート上で負傷した選手に対し、入場許可を受けた2名は、負傷したプレーヤーをコート外に運び出すことが前提となる。レフェリーの指示に従わずコート上で長時間治療行為を続けた場合は、チーム責任者に段階的罰則を適用する。
- そのコート外に運び出されたプレーヤーが再びコートへ戻れるのは、そのチームがその後3回の攻撃を終了させてからとなる。TDがこの状況に関して観察の責任を負う。
- TDは3回の攻撃が完了したことをチームに対して通知する。通知の方法は、該当するプレーヤーの背番号を記載したカードを取り除く等がある。

- 延長戦も含め、前半・後半のそれぞれが終了すれば、3回の攻撃回数のカウントは終了する。つまり、前半が終了すれば、そのプレイヤーはそれまでの攻撃回数に関係なく後半開始からコートに戻ることが許される。また、後半が終了し延長戦や7mスローコンテストへと競技が続く場合も同様であり、第1延長、第2延長、7mスローコンテストの開始時点から、そのプレイヤーはコートに戻ることが許される。
- 1回の攻撃は、そのチームがボールを所持してから始まり、得点をするかボールの所持を失った時点で終了となる。
- ボールを所持している時点で、そのチームの選手に治療行為を行った場合は、1回目の攻撃はその後の再開の笛から始まる。
- コート上で治療行為を受け、3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることが許されないプレイヤーが2分間の退場を受けた場合や、早めにコートへ入り不正交代となった場合、そのプレイヤーがコートに戻れるのは、攻撃の回数に関わらず、2分間の退場時間が満了したときとなる。
- 段階的罰則の適用を受けた相手チームの違反行為の結果、コート上で治療行為をすることとなった場合は、上記の状況とは異なる。
- ゴールキーパーの頭部にボールがあたり、コート上で治療行為が必要となった場合も、上記の状況とは異なる。
- プレイヤーが自らコートを離れ、コート外で治療行為を受けた場合はいつでもコートに戻ることができる。

3 パッシブプレー

<競技規則条文>

競技規則 7:11 7:12 はそのまま

競技規則解釈 4 の A, B, C, および E はそのまま

この条項が成立した経緯は、予告合図が示された後、パッシブプレーの判定するまでの間が、レフェリーによって基準が異なるという課題があり、明確な判断基準を設定してほしいという意見があげられたことから、予告合図後の攻撃側のパスの回数を制限した。

<競技規則解釈4 D を以下の通り改める>

- レフェリーは予告合図の有無にかかわらず、攻撃側の狙いを定めた攻撃活動を認知できない場合はいつでもパッシブプレーの判定をすることができる。
- 予告合図のあと、攻撃側チームは最大6回まで、パスやシュートの機会が与えられる。(あくまで最大であり、6回になる前に判定をされることもあり得る)

- 次の場合は1回のパスとしてカウントしない。
 - ①防御側の違反によって攻撃側プレイヤーがパスやキャッチを十分にコントロールできなかった場合（防御側の違反としてフリースローを判定し競技を中断した場合）
 - ②防御側プレイヤーがパスカットして、そのボールが直接コートを出た場合（攻撃側にスローインを判定した場合）
 - ③6回目のパスの後、パスを受けた攻撃側がシュートしたが、防御側プレイヤーがブロックした場合

- 6回目のパスのあと、ゴールへのシュートがなかった場合、どちらか1方のレフェリーがパッシブプレーの判定をする（相手チームのフリースローとなる）。

- 途中攻撃側のチームにフリースローやスローインが与えられた場合でも、パスの回数は継続される。

- 攻撃側のシュートが防御側プレイヤーにブロックされた場合でも、パスの回数は継続される。

- 6回目の後、レフェリーがパッシブプレーの判定をする前に、防御側プレイヤーが違反をした場合は攻撃側にフリースローやスローインが与えられる。この場合、攻撃側には、攻撃を完了するため、フリースローやスローインから直接シュートを打つことを含め、さらに1回のパスをすることが許される。

- 6回目のパスの後に行われたシュートが防御側にブロックされ、ボールが再び攻撃側に直接戻った場合や、ブロックされたボールがサイドラインやアウターゴールラインを超えた場合は、攻撃を完了させるため、さらに1回のパスをすることが許される。

- パスの回数は、競技規則 17:11 により、レフェリーの事実判定となる。予告合図の後、スローの回数を数えるなどの行為はないようにする(8:7(a)(b))。

- 6回目のパスを行った場合と、それまでのパスを行った場合による判断基準については別表を参照

4 終了前30秒間

<確認>

- これまでは「終了間際」と定義し、時間については特に言及していなかった。また、この時間帯で違反行為を行ったプレイヤーに対しては「報告書を伴う失格」としてのみ扱ってきた。これでは、攻撃側チームにとって最後の得点チャンスが違反行為によって防御されたことには変わらない。従って、今回の改正では「時間の設定」および「7 mスローによる再開」を明記する。

○この「終了間際」は、正規の競技時間に加え、延長戦にも適用する。

○正規の「後半残り30秒」第1・2延長の「後半残り30秒」のことである。

<競技規則 8:5, 8:6, 8:10(c)および(d) を以下に調整する>

(1)この条文が適用されるのは「競技終了前30秒間（30秒前から競技終了時まで）」のことである。

(2)競技規則 8:10(c)に示される違反行為については、報告書を伴わない失格とする。また、相手に7mスローを与えなければならない。

○この時間帯においては通常の2分間退場やフリースローの判定もあり得る。
違反行為のすべてが失格+7mスローの判定につながるわけではない。

○この時間帯においては、各種スローの実施を遅らせるような違反行為も同様に報告書を伴わない失格+7mスローの判定となる。

○3mの距離の確保について

この条文が適用されるのは、3mの距離を確保せず、相手にスローをさせなかった場合である。3mの距離を確保せず、相手がスローしたボール（相手の手を離れたボール）をブロックした場合は、終了前30秒間であっても通常の段階的罰則が適用され、機械的に7mスローの判定とはならない。

○スローを遅らせるために、防御側チームが不正交代を行った場合もこの条文を適用する。

(3)競技規則 8:10(d)に該当する競技規則 8:5 の違反行為については、報告書を伴わない失格とする。また、相手チームに7mスローを与える。

(4)競技規則 8:10(c) (d)に該当する競技規則 8:6, 8:10(a) (b)の違反行為については、報告書を伴う失格とする。また、相手チームに7mスローを与える。

○チーム役員がスポーツマンシップに反する行為を行い、競技を中断することになった場合も同様である。(極めてを削除)

(5)アドバンテージルールは考慮される。違反されたプレーヤーがシュートし、あるいは違反されたプレーヤーからパスを受けた味方のプレーヤーが得点した場合は、失格を判定するが、得点とし、7mスローの判定は不要である。

しかし、レフェリーは以下の状況では競技を中断し7mスロー、および、失格を判定する。

①パスを受けた選手が、得点できなかつたとき。

②パスを受けた選手が、シュートではなく、パスを行ったとき。

つまり、この状況におけるアドバンテージとは、違反を受けたプレーヤーからパスを受けたプレーヤーが得点できるかどうかを観察するまでである。

(6)違反行為が競技時間中に行われたか、競技終了時に行われたかについては、レフェリーの事実判定に基づく。

5 ブルーカード

＜競技規則 16:8(8:6 および 8:10 に関連して) の最終段落を以下の通り改める＞

○報告書を伴う失格であるとレフェリーが判断したならば(レッドカードに加え)ブルーカードを示す。

○ブルーカードはレフェリーが持っておく(つまり3枚のカードを持ち備える)

○レフェリーはレッドカードを示した後、ペアで短時間の相談の後、必要であればブルーカードを示す

6 「競技規則運用についてのガイドライン」の新設

今回の競技規則書の後方には、これまでの「競技規則解釈」に加え、細かい点の確認の意味で「**競技規則運用についてのガイドライン**」(以下「ガイドライン」)のページが新設されている。

また以下の点は、今回の改定とは別に新たに競技規則書の中に記載されている内容である。これまでも通達等で扱われていたが、今回は規則として記載された。

競技規則 4の2 交代地域規定におけるチーム責任者の果たすべきことと罰則との関係

競技規則 4の9 プレーヤーの服装 許されるものとそうでないもの
試合に先立ち、チーム責任者は記録用紙にサインを行う

競技規則 7の3 「1歩」のステップについて、一方の足を動かし、もう一方の足を引き寄せる行為を「1歩」と数えること。

競技規則 13の2 不正交代が行われた際とアドバンテージについて
14の2

交代地域規定 5 チーム役員1名は指示のためコート上に立つことが許されるが、競技を妨害してはならない

ガイドライン コート図に、コーチングゾーンを設ける

ガイドライン 競技終了前5分間におけるチームタイムアウトについて

ガイドライン 「表2」に写真入りでプレーヤーの服装について記載

ガイドライン スローインの実施に関する補足説明

ガイドライン スローの実施に関する補足説明

ガイドライン 観客による危害を与える行為について

※競技規則問題集2016年版 解答の訂正 問題27 (b) 問題150 (b) が正答

表

パッシブプレーの規則変更に関するチームへのトレーニングサポート

「1回のパスとカウントするかどうか？」

6回目のパスまで

例	攻撃側プレイヤー A1の動き	防御側プレイヤー Bの動き	攻撃側プレイヤー A2の動き	競技の継続	判定
1	A2へパス	ボールに触れていない	キャッチしボールを コントロール	継続	パスとしてカウント
2	A2へパス	ボールに触れた	キャッチしボールを コントロール	継続	パスとしてカウント
3	A2へパス	ボールに触れ/ボール をブロックし、ボール は攻撃A1に戻る	ボールに触れていない	継続	パスとしてカウント
4	A2へパス	カットし、ボールは直接 サイドライン/アウター ゴールラインからコート 外へ出る	ボールに触れていない	Aチームのスロー イン	パスとしてカウント しない
5	A2へパス	パスをしているA1へ ファール	ボールをキャッチ できない	Aチームのフリース ロー	パスとしてカウント しない
6	A2へパス	キャッチしようとして いるA2へのファール	ボールをキャッチ できない	Aチームのフリース ロー	パスとしてカウント しない
7	シュート	ゴールキーパーがセー ブする/ボールがゴール ポストに当たる	ボールがAチームに 戻ってきた	継続	予告合図を取り消す
8	シュート	ゴールキーパーがセー ブする/ボールがゴール ポストに当たる	ボールがサイドライン からコート外へ出る	Aチームのスロー イン	予告合図を取り消す
9	シュート	違反がない	何もしていない	得点 Bチームのスロー オフ	攻撃は終了
10	シュート	ゴールキーパーがセー ブしボールを保持 する	何もしていない	ゴールキーパー スロー	Aチームはボールの 所持を失う 攻撃は終了
11	シュート	ゴールキーパーがセー ブする/ボールがゴール ポストに当たる	Bチームのプレーヤ ーがボールを保持 する	継続	Aチームはボールの 所持を失う 攻撃は終了
12	シュート	シュートをブロックし、 ボールは直接サイド ライン/アウター ゴールラインからコ ート外へ出る	何もしていない	Aチームのスロー イン	パスとしてカウント しない
13	シュート	シュートをブロック する	ボールをキャッチ する	継続	パスとしてカウント する
14	シュート	シュートをブロック する	A1が再びボールを キャッチする	継続	パスとしてカウント する
15	シュート	違反がない	ボールをキャッチ する	継続	パスとしてカウント する

6回目のパスの後

例	6回目のパスをキャッチしたA1の動き	防御側プレイヤーBの動き	攻撃側プレイヤーA2の動き	競技の継続	判定
1	シュート	何もしていない	ボールをキャッチ	Bチームのフリースロー	パッシブプレーの判定
2	シュート	ボールに触れた	ボールをキャッチ	継続	あと1回のパスが許される
3	シュート	シュートをブロックする	ボールをキャッチ	継続	あと1回のパスが許される
4	シュート	シュートをブロックする	A1が再びボールをキャッチする	継続	あと1回のパスが許される
5	シュート	シュートをブロックし、ボールは直接サイドライン/アウターゴールラインからコート外へ出る	何もしていない	Aチームのスローイン	あと1回のパスが許される
6	シュート	A1へファール	何もしていない	Aチームのフリースロー	あと1回のパスが許される
7	シュート	ゴールキーパーがセーブする/ボールがゴールポストに当たる	Aチームにボールが戻る	継続	予告合図を取り消す
8	シュート	ゴールキーパーがセーブする/ボールがゴールポストに当たる	ボールがサイドラインからコート外へ	Aチームのスローイン	予告合図を取り消す
9	シュート	違反がない	何もしていない	得点 Bチームのスローオフ	攻撃は終了
10	シュート	ゴールキーパーがセーブしボールを保持する	何もしていない	ゴールキーパースロー	ボールの所持を失い、攻撃は完了
11	シュート	ゴールキーパーがセーブする/ボールがゴールポストに当たる	Bチームのプレイヤーがボールを保持する	継続	ボールの所持を失い、攻撃は完了